

なきごえ

1984

4

大阪市
天王寺動物園協会

内田 至



幼い頃の日課は家の近くの武蔵野の雑木林を昆虫を求めて上級生の後について歩くことであった。

あの頃はまだズックの運動靴をはいている子供なんて、めったにいやしない。下駄をはいて、一生懸命おくれ

まいと付いていった。

夏の早朝はカブトムシの収穫は多かったが、朝露で下駄の上で足がツルツルすべるのには困った記憶がある。そして、ふんばって足の指に力を入れると、ジューと鼻緒が泥混じりのアワを吹いた。

自分の身の丈ほどの雑草の中を分けて進む林の中は、実におそろしく、神秘的ですらあった。そしてやっとのこととたどりついたクヌギの樹液に群がるカブトムシの間で、ゆっくりと羽を広げるオオムラサキを見たときの感激は、その後の私を蝶を追う少年にのめり込ませるのに十分な魅力をもっていた。

蝶を求めながらの山旅や青春は、やがて動物を相手に一生を送りたいという希求に変わって行き、自分の進路を決めるときにも全く迷うことなく現在の道に進んでいる。

水族館界に入った頃の昭和30年は、あたかもわが国の近代的水族館の黎明期でありすべてに活気があった。なにしろ展示する魚の組合わせにしても教科書には出ていないし、学校でも教わったことがなかった。だれも知らないのである。それぞれ自分の経験やカンに基づいて判断を下しているのだけれど、この経験たるや実に貧弱で手探りの状態であったがこ

なきごえ4月号もくじ

動物と私	2
“クロサイ”	3
動物園グラフ・動物園日記	4-5
天王寺の動物たち ④	6-7
天王寺の歴史をさぐる ⑤	8-9
獣医室から ③	10
動物園ニュース	11

れがひとつの新鮮さでもあった。

もちろん水族館学なんていう学問の体系はなかったし、この広い学際領域にまたがる知見は水産という範ちゆうでくれるものでもなかった。

こんなストレイ・シープ（迷える羊）のような私を支えてくれたのは、学生時代ある教授の最終講義の中で聞いた not books study nature という言葉であった。この前後の話しの内容はもうとうに記憶にないが、この言葉だけが新鮮な響きをもって今日でも亡き師の面影と共に、ほうふつとして蘇ってくるのである。

先生はこれから巣立つ若い学生を前にこのアガシーの言葉を述べられたわけだが、これはその後、動物と接するときの私の一つの指針のようなものになった。

言葉の意味は述べるまでもなく「書物ばかりに頼るなよ。自然を、生きものをよく見つめろよ」ということであろうか。

世の中が益々便利になってきている。電話一本で珍魚や欲しい動物が施設の裏口に運ばれてくる世である。だからわれわれは、つい手に入れた動物の息吹いていた自然に想いを馳せることを忘れ勝であり、頭の良い人ほど机上の知識だけで生き物をなんとかしようとする傾向が無いとはいへない。

新前の職員が上手く魚が飼えません……とやって来たとき、私はもう一度ポンベを背負って海に潜って魚を観てこいとよくいう。

動物園では安直にアフリカのサバンナに行くわけには行かないだろうが、動物そのものの生きざまをよく観るといふ点で違いはない。

動物たちのパントマイムを飼育者が読み取らずしてだれが解説するのであろうか。

(姫路市立水族館長)

表紙の写真説明

“ピューマ”

ピューマは、北はカナダから南は南米の南端までという広い分布域を持ち、その上、平地から4000mの高山にまで住める大変応力の優れた動物です。

(撮影：長瀬 健二郎)



“こんなに大きくなりました！”

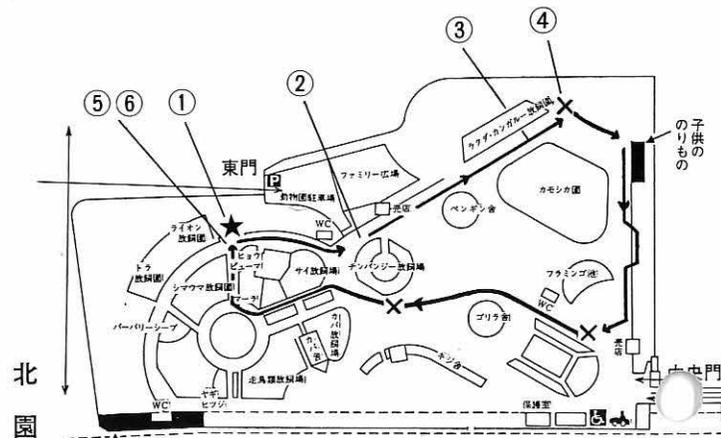
昨年7月21日に生まれたクロサイの赤ちゃん（愛称サイ太、オス）はもうずいぶん大きくなり、毎日、午後から母親のサッチャンと共に放飼場に出されると元気一杯に走り回っています。

(撮影：宮下 実)

動物園グラフ

“脱出猛獣捕獲訓練”

2月27日、チュウゴクオオカミが脱出したとの想定のもとに避難、捕獲訓練を実施しました。当日は警察の協力も得て、人工哺育で育った本物のチュウゴクオオカミの“鈴鈴”が主役となって実施されました。脱出から捕獲までの様子をグラフでご紹介します。



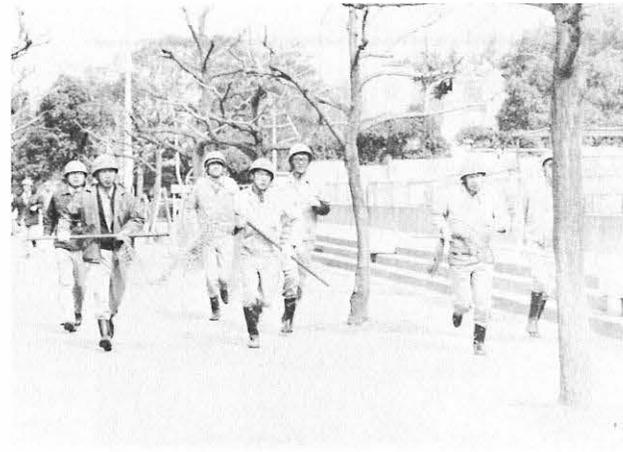
① 10:30 オオカミ舎よりチュウゴクオオカミ脱出。非常警報発信。捕獲隊長出動。第1捕獲班出動。

② 10:33 東門付近で、入園者を襲い1名負傷。10:35 救護班出動。

2・3月の動物園日記

- 2 / 17. トラが交尾しました。
- 2 / 19. ボランティアによるスポットガイドが水禽放養舎前で行なわれました。
- 2 / 20. キリンの子“ムッコ”を生まれてはじめて運動場に出しました。
- 2 / 21. コンドルおよびトラがそれぞれ交尾しました。展示予定のフクロウの性別鑑定を行ないました。
- 2 / 22. 今年4頭目のメンヨウが生まれました。
- 2 / 23. オランウータン“サツキ”が雄の子を出産

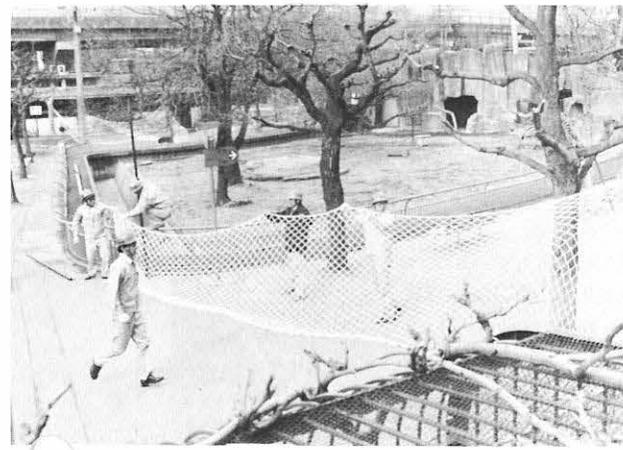
- しましたが、初産のため驚き興奮したためおしくも死亡させてしまいました。
- 2 / 24. 水禽放養舎のシュバシコウとコウノトリ舎のゴウノトリのために、巣の中にヤナギの巣材を入れてやりました。
- 2 / 28. 近畿動物園獣医師勉強会が開かれました。オランウータン“サツキ”に産後感染予防のため薬を与えることにしました。
- 2 / 26. 南園日本庭園の池にいるカナダガンの1羽が、ほかの5羽に追われるためクロエリハクチョウ舎の池に移しました。
- 2 / 26. 定例飼育研究会がありました。
- 2 / 27. 猛獣脱出捕獲訓練を行ないました。



③ 10:35 第1捕獲班東門からラクダ舎方面へ。第2捕獲班、麻酔銃班出動。



④ 10:38 ステージ横でオオカミ包囲麻酔銃発射。



⑤ 10:43 オオカミ舎前にて捕獲用立網設置。



⑥ 10:51 オオカミを捕獲網にて捕獲。訓練終了。

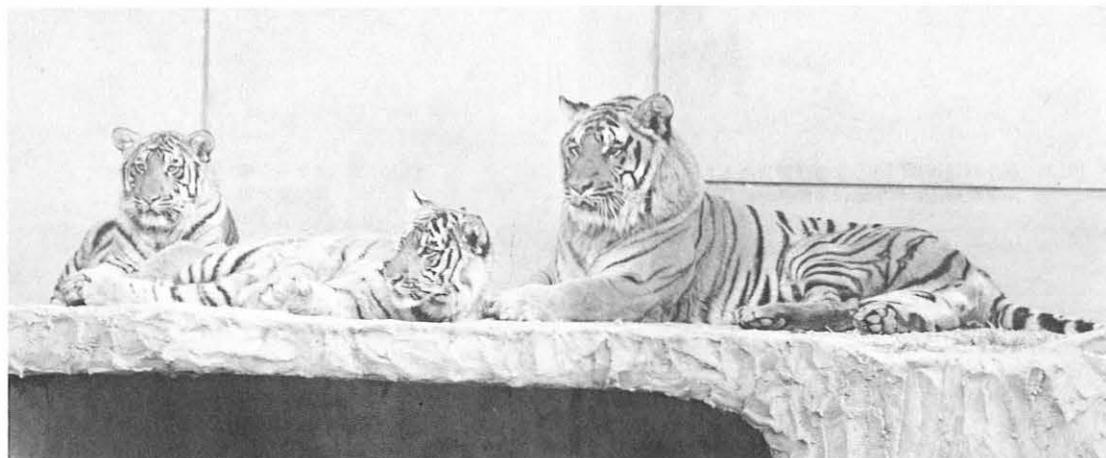
- アオサギを1羽保護しました。
- 2 / 28. キーウィ3羽の体重測定を行ないました。コンドルが交尾しました。
- 2 / 29. ホッキョクグマが発情したのかユキオがユキコに対して交尾姿勢をとりましたが、ユキコが逃げたため交尾には至りませんでした。
- 3 / 1. フタコブラクダの雌“サクラ”が蹄(ひづめ)をいためたので治療を始めました。
- 3 / 2. レアの雌が死亡しました。解剖の結果、著明な動脈硬化がみられました。近畿ブロックの飼育係講習会が当園にて開催されました。

- 3 / 3. コウノトリ舎に止まり木を取り付けました。
- 3 / 4. キングペンギンが1個産卵しました。人工哺育中の2頭のトラの子を小獣舎に展示することになりました。
- 3 / 7. コンドルが1個産卵し抱卵も確認しましたが、まもなく破卵してしまいました。
- 3 / 8. 当園で12年間飼育してきたカムリバトが老衰で死亡しました。
- 3 / 9. 咬傷で入院していたカニクイザル (No.6) が完治したので退院させました。
- 3 / 10. トキイロコンドルの雌“カルリータ”が血便をするので入院、治療を始めました。ビントロングの雄も老衰で入院させました。

天王寺の動物たち ④



トラ



トラの生息数は減少しています。

§ 減少したトラ

100,000

5,000

上の数字は何だと思いませんか？

実は前者は今世紀初めのアジアのトラの生息数、後者は1969年の生息数です。この70年程でいかにトラの数が減ったかわかりただけだと思います。

その間に世界の人口は16億人から40億人近くまで増加しています。トラの激減の理由のひとつにこの人口の爆発的増加もあげられると思います。つまり人口が増え食糧の増産のためそれまでトラの生



人工哺育のトラの赤ちゃん

息地であった森林も農作物栽培用に開発されて行きました。その結果そこに住んでいたトラは追い出され、またエサになる動物も住み家を失ってちりぢり

になり、トラは住み家のみならずエサまでも失っていったのです。そして、その上農作業の安全確保の名のもとに狩猟の対象として狩られました。同時に毛皮業者からもねらわれました。つまり直接的には乱獲、間接的には生息地の開発、この両者がトラの激減の大きな原因となっています。

少し話はそれますが、トラが分布する国ではよく「人食いトラ」という問題が起きます。これは年老いて若いころのように獲物をとれなくなったトラか、あるいは手負いのトラが比較的楽にとれる人を襲うとされてきました。しかし、近年ネパールで起こった人食いトラ事件の犯人は子連れの若いメスでした。このメスは栄養不良におちいっていました。つまり、開発のためエサになる動物が減少し、子供のためにエサを見つけなければならなかった母トラがやむなく人間を襲ったということらしいのです。食べられた人も、襲ったトラも開発の犠牲者ではないでしょうか。

トラは北はシベリア南東部、南はジャワ、東はカスビ海周辺、西はアムール川流域と、大変広い地域に分布しています。そのため各地のトラは体格や体色、シマ模様などに違いがあり、住んでいる地域によって亜種として分けられています。シベリアトラ、ベンガルトラ、ベルシャトラ、インドシナトラ、ジャワトラ、アモイトラ、バリトラそしてスマトラ

ラなどです。このうちベンガルトラは約3000頭生息するとされています。シベリアトラ、アモイトラ、インドシナトラの詳しい消息は不明です。スマトラ

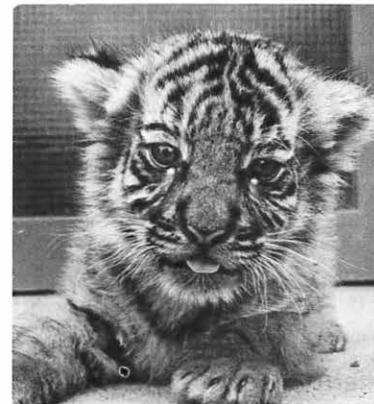


ベンガルトラの母子

トラは数百頭、ジャワトラは4,5頭と言われます。そしてバリトラやベルシャトラにいたってはもう絶滅してしまった可能性もあります。

§ インドのトラの保護

ジャイアントパンダのシンボルマークでお馴染みの世界野生生物基金(WWF)では関係機関の協力を得て大規模なトラの保護活動を展開しました。オペレーションタイガー、トラ作戦と名付けられたこ



生後約1ヶ月

の活動は1972年から発動しました。これを受けて「プロジェクトタイガー」と称してトラの保護を強化したインド政府に対し、WWFは2億4千万円の助成をしています。インド政府は以前からトラ保護の必要性を認識し1970年にはトラ狩りの全面禁止令を布告していましたが、1972年以降さらに保護を強化し10ヶ所の保護区をトラの為に設けました。そして厳しく管理し密猟などに鋭く眼を光らせました。その成果は着実に上がり、現在インドのトラは約3000頭と見積もられています。しかし、ある調査によりますと今世紀初頭、インドのトラは4万頭と見積もられていました。それが1939年3万頭、1964年4000頭、

1969年2500頭、1972年には実に1800頭と減少していったわけです。それが10年後には倍近い3000頭にまで回復し、現在も年6%の増加率で増えるようになったというのですから喜ぶべきことです。しかし80年前の数字とは比ぶべきもありません。

§ 中国での保護

インドのお隣の国、中国もかつてはトラの多い国でした。国土が広いだけあってシベリアトラ、アモイトラ、ベンガルトラ、インドシナトラと4つの亜種がひとつの国でみられていた程です。しかしここでも狩猟と生息環境の破壊、それに害獣指定のためトラは激減しました。アモイトラの場合、害獣駆除キャンペーンの目標にされ、1955、56年の2年間で人民解放軍の兵士の手により1000頭近くも殺され



トラは水泳も得意です

ています。しかし中国政府も次第にトラの保護の必要性に気づき1950年代にシベリアトラ、1977年にはアモイトラとベンガルトラの狩猟全面禁止という措置がとられています。まだ保護区設定にまでは至っていませんが、各地に保護区を設けようとする動きはあるそうです。

§ トラを守るために

シカ類 274頭、イノシシ43頭、野生ウシ12頭。これはインドのある保護区でトラ1頭と共にくらしていた動物の数です。つまり1頭のトラが野生でくらするためにはこれだけの餌となる動物が必要なわけです。またトラのために保護区を設けるということはこれらの動物も同時に保護されるということにもなります。現にインドではトラのために設定された保護区でゾウやサイも生息数を増やしはじめたと聞いています。

インドや中国のみならず、この少なくなったトラの分布する各国がトラという食物連鎖のトップに立つ動物の重要性に早く気づき、トラを絶滅に追いやらないための方策を講じていただきたいものです。

(長瀬 健二郎：飼育課・獣医師)

天王寺の歴史をさぐる ⑤

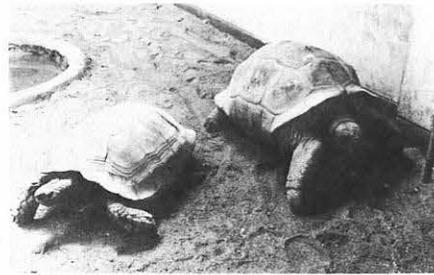
外国との動物往来 (3)

昨年の8月号、12月号に続き、昭和51年以降の外国との動物往来についてご紹介しましょう。

昭和51～52年

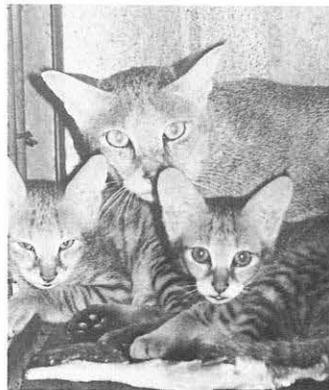
ビルマ及びバングラデシュとの動物交換

昭和51年、ビルマ政府から親善動物交換の申込こみがあり、国立ラングーン動物園と7月に動物交換を行いました。当園からは日本の国鳥のキジ、タヌキ、アグーチ各一つがいを贈り、ラングーン動物園からはブラックタートル



ムツアシガメ

2頭、ムツアシガメ2頭、パインズネーク10頭が贈られてきました。

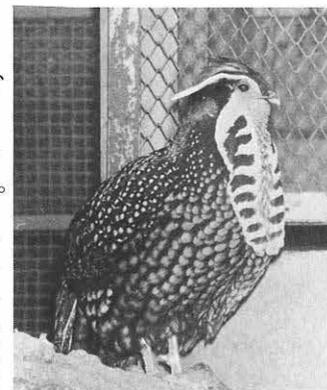


翌昭和52年にはバングラデシュの国立ダッカ動物園と動物交換が実現しました。当園からは1月にタヌキ、アナグマ各一つがいを贈り、ダッカ動物園からはそのお返しとして4月にジャングル

繁殖に成功したジャングルキャット一つがいが贈られてきました。ジャングルキャットは昭和54年に日本で初めての繁殖に成功し、繁殖賞を受賞しています。さらに昭和55年にも二回目の繁殖に成功しています。ダッカ動物園にはその後、昭和53年5月にピューマ一つがいとヌキ、アナグマ各1頭を贈りました。

中国・上海市との友好都市提携記念動物交換 昭和52～59年

昭和49年に大阪市と上海市との友好都市提携を記念して動物交換を行いました。その後、昨年10月まで5次にわたって友好交流事業の一環として動物交換を実施してきました。



ベニジュケイ(オス)

昭和52年に第2次動物交換として、10月に当園からチンパンジー一つがいを贈り、上海動物園からは11月にベニジュケイ二つがいを贈ってきました。ベニジュケイは昭和54年に2羽繁殖して繁殖賞を受賞し、その後も毎年順調に繁殖しています。



コウノトリ

昭和53年には第3次動物交換として、11月に上海動物園からコウノトリ一つがいが贈られてきました。コウノトリは日本では野生下のものが絶滅してしまった状態だっただけに、コウノトリ舎を新設するなど万全の体制を整えましたが、メスは昭和56年に、オスも後を追うように昭和57年に死亡しました。当園からは翌年5月にアミメキリン一つがいを贈りました。



クロオオカミ

ウゴクオオカミの黒色変種)一つがいが贈られてきました。このクロオオカミは昭和58年2月に8頭も出産し、4頭を母親が育て、残る4頭を人工哺育で育てましたが、8頭すべて成育に成功しました。この返礼に当園からは昭和57年6月、アシカのオス1頭とマントヒヒ一つがいを贈りました。

第5次動物交換は昭和58年10月、上海動物園からフランソワルトン一つがいと再度コウノトリ一つがいを贈っていただきました。フランソワルトン、コウノトリ共、近い将来ぜひとも繁殖させたいものです。お返しには4月にダチョウとラマ各一つがいを贈る予定をしており、昭和49年に友好都市を提携して以来、ちょうど満10年を迎えることとなります。

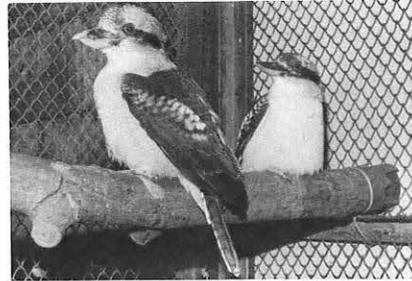


フランソワルトン

姉妹都市提携記念動物

昭和54年

昭和54年、オーストラリアのメルボルン市と大阪市が姉妹都市を提携したのを記念して、メルボルン動物園と6月に動物交換を行いました。当園からはアフリカ産のオナガザルの仲間であるハナジロゲン

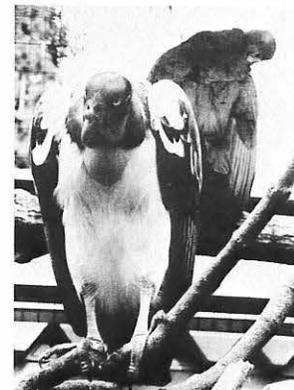


フライカワセミ

チョウ一つがいが贈られてきました。フライカワセミは人の笑い声に似た特有の鳴き声で人気を集めていますし、ヤブシチメンチョウも卵をふ化させるための特有の塚を作りあげるので興味をひいています。いずれも産卵がみられており、繁殖までもう少しです。

米国・サンディエゴ動物園との動物交換

昭和56年9月、サンディエゴ動物園にタンチョウ一つがいが贈りました。このタンチョウをサンディエゴ動物園が希望したのは昭和45年の大阪での万国博覧会の時で、その時は当園にもタンチョウはオス1羽だけでしたのでこの話はすぐに実現しませんでした。しかし7年連続して繁殖に成功し、タンチョウも13羽も収容するようになり10年ごとに



トキイロコンドル



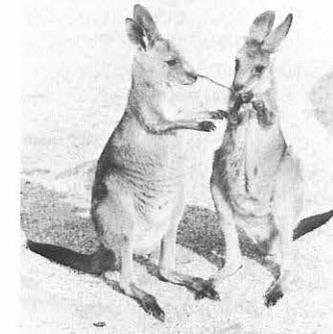
キーウィ

やっとなんとサンディエゴ動物園への贈呈が実現しました。このお返しに昭和58年6月にトキイロコンドルが一つがい贈られてきました。オスは1才、メスは5才と共に若く、今後の繁殖が期待されます。

ニュージーランドからキーウィの寄贈

昭和57年7月、ニュージーランドのオトロハンガ

キーウィセンターから待望のキーウィの寄贈を受けました。12年前の大阪での万国博覧会の開催を記念して、その時にニュージーランド政府から一つがいのキーウィの寄贈を受けましたが、メスが3ヶ月ほどで死亡した長らくオスだけで飼育してきました。メスの譲り受けを熱望していたところ、やっとオトロハンガキーウィセンターで人工ふ化した3羽のヒナを寄贈していた



ハイロカンガルー

だいたわけです。

オーストラリアからの動物使節

昭和57～58年

昭和57年12月、ハイロカンガルー、メス2頭の寄贈を受けました。これは昭和55年に大阪で開催された国際青年会議所世界大会の際に、オーストラリア青年会議所から大阪青年会議所へ寄贈の約束がなされていたものです。

昭和58年7月にメンヨウ2頭の寄贈を受けました。



メンヨウ

このメンヨウは品種名サクソン・エクストラ・ファイン・メソノーという世界一の品質といわれる羊毛を産するメンヨウで、オーストラリアのローンセストン市の市長一行が昭和57年に大阪を訪問の折にブレゼン



ハリモグラ

い贈られてきました。これはオーストラリアのメルボルン市ビクトリア製造業会議所と大阪商工会議所の姉妹会議所の縁組を記念して贈られたものです。

(飼育課：宮下 実)

冬の入院動物

今回の大阪の冬は、77年ぶりという大雪もあり、寒さはかなりきびしいものとなりました。そんな厳冬にもめげず動物たちは元気いっぱいでしたが、一部の動物は我々獣医の治療を受けることになりました。昨年11月1日から今年3月14日までのカルテをみますと、展示動物では、哺乳類で69頭の治療を行ない、そのうち12%の8頭が入院し、鳥類で28羽の治療を行ない、そのうち43%の12羽を入院させ治療を行ないました。保護動物も入れるとかなりの数になり動物病院は、例外もなく大忙しでした。

今回は、冬期に入院した動物の中から一部のカルテをひろってみることにしました。

§ 裸のサル

11月21日、全身の毛がすっかり脱けてしまった昨年生まれのニホンザルの雄の子“ポッチ”(写真1)が入院してきました。このようなことをしたのは、



写真①

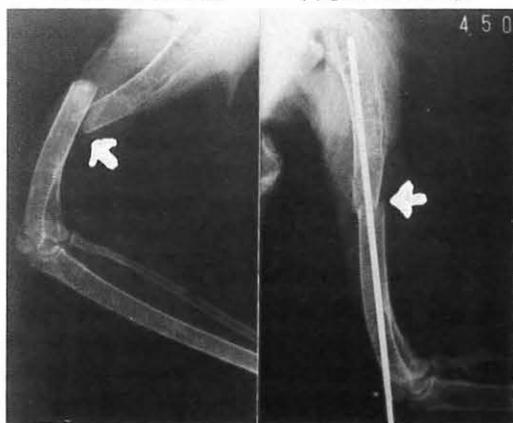
一番信頼できている母親なのでから子殺しとはいかないまでもあまりにひどいのではないのでしょうか。いくら寒さに強いニホンザルだからといって体毛がなくては冬を越すわけにはいきません。ということで、さっそく捕獲し暖かい病院に隔離したわけです。なぜ、母親が自分の子の毛を抜いたのか、原因ははっきりしないのですが、この母親(No.20)は、サル山のニホンザルの中でもかなり下位にランク付けされており、いじめられたりも当然するでしょう、そうしたことが彼女の精神をゆがめさせたのかも知れません。ポッチは栄養剤の補給をうけ、1月末には毛がほとんどはえそろういました。でもサル山に帰せないのが残念です。今から帰しても仲間からひどい攻撃を受けるだけなのです。ポッチは2月はじめ、裸のサルから本物のニホンザルになって出園してゆきました。

§ テナガザルの咬傷

11月28日、アジルテナガザルの雌が咬傷で入院してきました。病名は咬傷。となりのブタオザルに金網ごしに手をかまれ、手の指の骨が露出してしまったのです。病院につれてゆくには、まず麻酔しなければなりません。吹き矢にて麻酔し、X線写真をと

固定ピンを入れる前

固定ピンを入れた後



写真② イヌワシのX線写真(矢印骨折部)

り、さっそく手術に入りました。このサルは入院1か月で退院させました。

§ イヌワシの骨折

11月28日には、イヌワシが左の上腕骨を骨折したので入院させました。X線写真をまず撮り(写真2)、固定ピン(矢印)を骨の中に入れて内部から固定するとともに外部からも副木を添え固定したところ、45日の経過で治癒し退院させました。飛ぶのは現在も少々むづかしいようですが、しだいに飛べるようになりつつあります。



入院中のビントロング(上)とトキイロコンドル(下)

写真③

ました。当園に14年間いましたから寿命を全うしたといえましょう。

§ 血便をだすトキイロコンドルと衰弱したビントロング

3月10日には、トキイロコンドルとビントロングが入院してきました。(写真3)コンドルの方は原因不明の血便で糞便検査、細菌検査、X線検査など行なっていますが、いまだはっきりした原因がつかめません。ビントロングは寒さのせいか肺炎様の症状を呈し衰弱が激しかったのですが、しだいによくなりつつあります。

§ 夫からつつかれた雌キジ

1月15日には、同居の雄からつつかれて頭部をけがした雌のビルマカラヤマドリが入院してきました。夫婦であるにもかかわらず、一方が他方をつつき殺してしまうということがよくおこります。雌は今も入院中ですが、そのきずはすっかりよくなりました。

§ 老衰のジャッカル

1月25日には老衰したジャッカルの雄がかつぎこまれてきましたが、治療のいかもなく入院3日目に死亡し

動物園ニュース

§ 出産動物あれこれ

先月号でメンヨウ3頭の出産をお知らせしましたが、その後2月22日にもメスの赤ちゃんが1頭生まれ、今年4頭目の出産となりました。

また、2月28日、3月1日と続いてヤギの赤ちゃんも生まれています。トカラヤギも3月9日に2頭出産し、1頭は死亡しましたが、残る1頭は元気に育っています。



南園サルアパートでは、2月13日にムーアモンキーとクロザルの雑種のメスが

7月に続き2度目です。寒い日が続く毎日でしたが、生後5日目ぐらからは、室外の運動場に母親とともに出ています。

今後もどんどんいろいろな動物の赤ちゃん誕生のニュースをお知らせできるでしょう。

§ キリンの“ムツゴ”順調に成育

1月15日に生まれたキリンの“ムツゴ”は順調に成育し背の高さもかなり大きくなりました。そこで、2月20日は比較的暖かかったため、初めて親子を運動場に出しました。初め少々とまどい気味でしたが、母親の“リツ子”に寄りそい元気に運動場を歩きまわっていました。翌日からは寒い日を除いて、もう1頭のメス



ともども3頭いっしょに運動場に出ています。春が近づき入園者も増えており、子供たちの人気を集めています。

§ 脱出猛獣捕獲訓練

2月27日午前10時30分、オオカミ舎からオオカミが1頭脱出し、



現在の飼育動物数

(1984年2月29日現在)

哺乳類	9目	98種	361点
鳥類	20目	199種	654点
爬虫類	3目	36種	112点
計	32目	333種	1,127点

入園者と飼育係を負傷させたとの想定で捕獲訓練が行なわれました。訓練は人工哺育で育ったチュウゴクオオカミの“鈴鈴”が飼育係に引かれ実施されました。入園者の誘導、園内放送、救護班の活動、捕獲班・麻酔班の捕獲作業なども実際ながら全職員が参加し訓練が行なわれました。約30分でオオカミは取りおさえられ、訓練は無事終了しました。

§ コウノトリの巣材準備

例年、2月下旬には水禽放養舎のシュバシコウとコウノトリ舎のコウノトリのために巣材を巣台に上げていますが、今年も2月24日に行なわれました。たくさんさんのヤナギの小枝が巣台に上げられ、新しくなった巣の上で、シュバシコウはしきりに交尾していますので、

まもなく産卵し、4月頃にはヒナを見ることができるようでしょう。

§ キジ舎完成近づく

昨年末から工事が行なわれているキジ舎ですが、外周の金網の取付もほぼ終わり完成間近です。前面はステンレス金網が使用され、現在内装に取りかかっています。ここにはベニジュケイ、セイランはじめキジ類23種とワライカワセミが展示される予定です。この号が出るころには新しいキジ舎で、美しいキジたちをご覧いただけることでしょう。

§ 惜しかったオランウータンの誕生

2月23日の早朝、オランウータンの“サツキ”が産しました。しかし、初産のためかたいへん興奮し、生まれた赤ちゃんに危害を加えたため、すぐに赤ちゃんを取りあげましたが、残念ながら1時間ほどで死亡しました。性別は雄で体重は2.15kgでした。当園ではオランウータンの出産は初めてのことであり、万全の出産対策をとってきただけに非常に残念です。今後の出産を期待したいものです。

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。5月までの休園日は下記の通りです。
 3月19日(月)、4月16日(月)、5月21日(月)、
 開園時間は午前9時30分～午後5時で、午後4時に切符売止めになります。

すてき満喫

近鉄クレジットカード



- 全国の近鉄百貨店グループ・都ホテチェーンなどでワイドにお使いいただけます。
- カードをご提示いただくだけで30万円までのお買物をお楽しみいただけます。
- 繰り延べ払い(リボルビング方式)・一回払い・ボーナス一括払いの3つのお支払い方法がございます。
- 入会資格は20歳以上で2年以上お勤め、または自営の方です。

近鉄百貨店 お申込み・お問合せは各店クレジットセンター
アベノ店・上本町店・東大阪店・奈良店・西京路店・東京店

近鉄百貨店グループ

四日市近鉄・京都近鉄・岐阜近鉄・枚方近鉄・和歌山近鉄・近鉄松下(徳山)・別府近鉄・三交百貨店(松阪・伊勢)・近鉄東海ストア

ひかりのくに

監修・阪口浩平
指導・宮武頼夫

オールカラー

むし

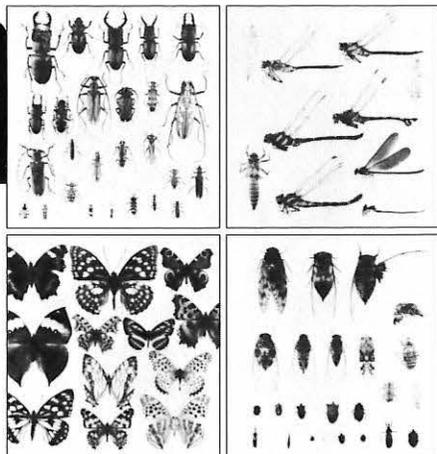
くらしとかいかた

今まで、気にもとめなかつた自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。
きつとすはらしいことに出会えるはずだ。

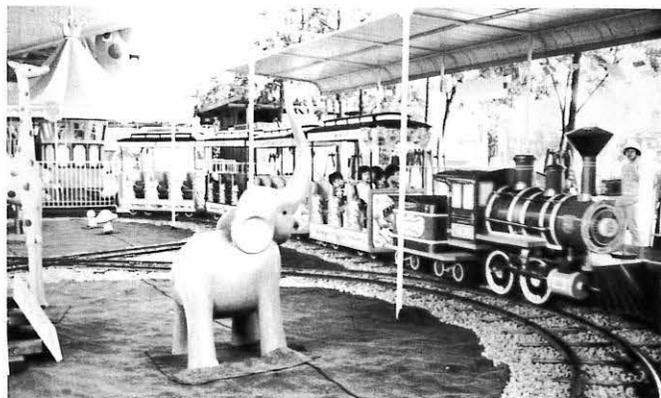


55変形
84ページ
580円

ひかりのくに株式会社
〒543 大阪市天王寺区上本町3-2



たのしいのりもの、が待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

天王寺動物園の機関紙

月刊 **なきごえ**

ご購読をお奨めします。
年間購読料 1,100円 (含、郵送料)

お申し込みは、**大阪市天王寺動物園協会**へ
TEL 06-771-0201

世界初の最高感度

(カラープリント用フィルム)

1600 新登場!

加治の大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031



フジカラー HR 1600

ISO1600/33° 135-24枚撮

◎ 動物のことなら あらゆることにお役に立ちます。

- 飼育指導 (ペットよろず相談)
- ふれあい子供動物園
- ふれあい動物写真会
- 撮影用動物モデルリース
- 動物(ペット)、教材用生物販売、リース、交換、引取り、預り
- 各種飼料、器具販売、配達

自然から学ぶおもいやり

株式
会社

アニマ

(いきもの110ばん)

☎ 06-863-1025 (代表)

〒561 豊中市利倉2丁目22-2

全国の愛犬家の共感を呼ぶ
無比の愛犬歌集

歌集 犬の歌

動物文学会主宰
平岩米吉著
(天金美装・箱入
B6判・270頁
2500円・〒不要
直接申込)

著者が、約40年の間に、共に暮らした70余頭の犬の生と死を歌った419首を取録。同時に、その誕生より老齢に至る写真47図を取め、犬の一生の生態写真集でもある。

動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2
電話(03)717-1659・振替東京5-9800

日本図書館協会選定
全国学校図書館選定

狼

その生態と歴史
犬科生態研究所長
平岩米吉著

A5判・320頁・
口絵挿絵等140図
定価2800円・〒300円

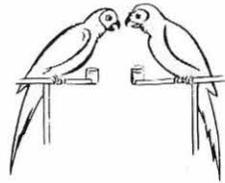
待望の日本狼の正史ついに完成!

☆犬科動物の研究者として、当代随一の著者が、数十年にわたり収集した正確な資料を、生態学の目をもって描いた空前の書。
☆日本狼は、大口の真神とあがめられた古代より、のちには病狼と恐れられ、やがて絶滅に至るまでの経緯を詳述。

主な目次

- | | |
|------------|-----------|
| 序 狼への幻想と現実 | 5 狼の伝説 |
| 1 犬科の分類と解説 | 6 日本狼の特徴 |
| 2 犬と狼の関係 | 7 日本狼の絶滅 |
| 3 日本狼の歴史 | 終 狼を飼った人々 |
| 4 狼狩の記録 | |

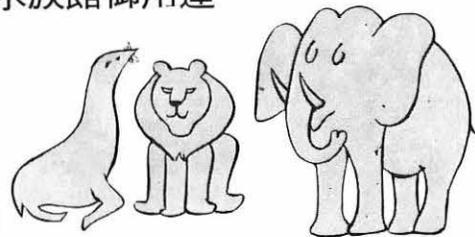
発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地
振替・東京4-165425



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494

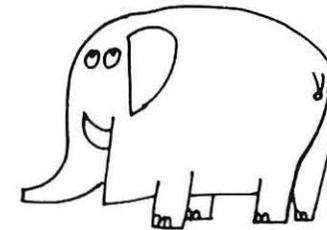
たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

天王寺動物園内



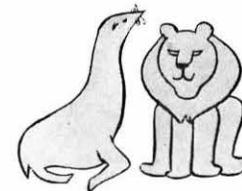
南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話(06)771-7110番

園内でのお写真は…

動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機しておりますのでご説明に伺いました際は、よろしくお願ひ致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト
の名コンビ



雪印ヨーグル

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

なきごえ 昭和59年4月15日発行(毎月1回15日発行)

第20巻 第4号 (通巻224号)

編集 / 大阪市天王寺動物園

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

電話 大阪 (06) 771-0201

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

振替口座 大阪 37823

1年継続(12部) 1,100円(送料共)

編集委員

土井 良彦	伊東 重朗	小出 雅三	樽本 勲	中川 哲男	前田 豊彦
宮下 実	長瀬健二郎	榑原 安昭	森本 委利	大野 尊信	菫谷 文彦
農本 武志	野口 秀高	仲谷 登	柴田 総	兼坂 雅浩	堀 弘
大川 光雄					